

(陳受23第13号)

浜岡原発の廃止を求めることに関する陳情

受理年月日

平成23年6月6日

陳情者

境2-11-4
佐藤 弓子

陳情の要旨

雪がまだ降る3月11日、東北、関東地方を突如、巨大な東北地方太平洋沖地震が襲い、東京電力福島原発震災が発生しました。海岸べりに建ち並ぶ4基のうち、1・2・3号機が炉心溶融、さらに4号機の使用済み核燃料プールが火災を起こし、大量の死の灰が噴出。難題が続出し、数カ月以上たっても収束のめどさえ立っていません。日々放射能が放出され、地球規模で汚染が広がっています。これから何が起こるのか誰にもわかりません。唯一の被爆国日本が、愚かにも放射能汚染の加害者となってしまいました。福島原発事故は、現在までに起きた最悪のレベル7とされるチェルノブイリ原発事故と同じレベル7ですが、放射能の放出量はチェルノブイリをはるかに超えました。東電福島原発震災によって、原発現地の人々は、着のみ着のまま避難させられ、全国の人々は、放射能に汚染された農畜海産物の食物連鎖に恐れおののいています。放射能は微量でも危険なため、食べ物と一緒に体内に取り込まれた死の灰による継続的内部被曝を恐れていることです。特に幼い子どもたち、胎児にとっては、その影響ははかりしれません。

3月23日、東京都の金町浄水場からヨウ素131が検出され、乳飲み子を抱えた母親たちは水を求めて走り回りました。半減期が30年と長いセシウム137が神奈川県、静岡県、千葉県のお茶の葉から検出されました。雪に吸着したセシウム137が土壌にしみ込んだと考えられる田んぼでは、稲の作付が禁止されました。さまざまな核種による死の灰で大気や大地や海が汚染され、根こそぎ生きる基本が失われてしまいました。地震の巣のような日本列島の海岸べりに建つ54基の原発に私たちは取り囲まれています。その中でも、浜岡原発は、いつ起きてもおかしくない国が想定した巨大東海地震の震源域の真上に建っています。国が許可したからです。

5月6日、菅直人総理大臣は、中部電力に対して津波対策が完了するまでの約2年間、浜岡原発を全機停止するよう要請し、中部電力はそれを受け入れて停止させました。東電福島原発震災は、沖合130キロメートルで発生した東北地方太平洋沖地震で引き起こされたものです。浜岡原発は恐ろしいことに、直下15キロメートルで起きるとされている東海地震に突然襲われるのです。さらに、大きな余震も必ず起きます。浜岡原発が破壊されることによって発生する死の灰による災害の惨状は、福島原発震災をはるかに超えるものと考えられます。浜岡原発震災が起きれば、ほぼ180キロメートルに位置する武蔵野市も必ず死の灰に襲われます。国境も行政区もなく、死の灰は降り注ぎ、遺伝子を傷つけます。誰にも責任はとれません。今を生きる人々、未来に続くいのちの生存権が奪われてしまいます。

以上の理由から、浜岡原発を一時的停止ではなく、廃止にするよう、下記のことを陳情します。

記

- 1 子どもたちに放射性物質による被害を及ぼしてはなりません。「原発災害」を未然に防ぐために、議会において浜岡原発の廃止を決議してください。
- 2 内閣総理大臣並びに衆議院・参議院議長、各関係省庁に意見書を提出してください。
- 3 市民の生命と財産を守る最高責任者である市長は、浜岡原発廃止の要望書を内閣総理大臣並びに衆議院・参議院議長、各関係省庁に提出してください。